

製品名: PABPN1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe85902**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC,IP
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC 1:50-1:200,IP 1:10-1:20
分子量	Calculated MW: 33 kDa; Observed MW: 50 kDa

抗原情報

遺伝子名	PABPN1
別名	OPMD; PAB2; PABII; PABP2; PABP-2
遺伝子 ID	8106.0
SwissProt ID	Q86U42
免疫原	ヒト PABPN1 の合成ペプチド

背景

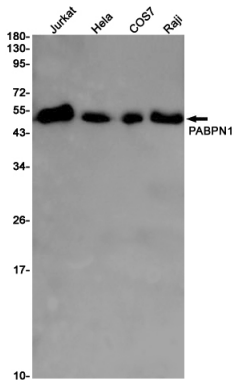
上流の切断産物に 200~250 塩基のポリ(A)テールを付加することにより、mRNA 前駆体 (pre-mRNA) の 3'末端形成に関与する。ポ

リ(A)ポリメラーゼ (PAPOLA) を刺激し、ポリ(A)テール伸長反応にプロセッシング能力を付与するとともに、ポリ(A)テールの長さも制御する。ポリ(A)ポリメラーゼの RNA に対する親和性を高める。

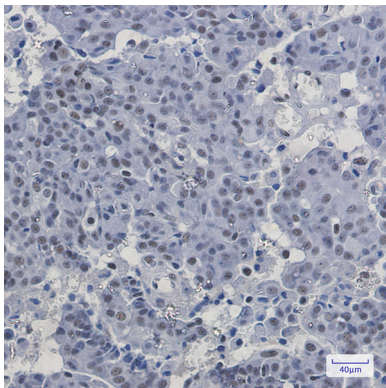
研究分野

-

画像データ



PABPN1 抗体を使用した、Jurkat、HeLa、COS7、Raji 溶解物中の PABPN1 のウエスタンブロット分析。



PABPN1 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学分析。抗原賦活化には高压高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。